

### セッション内容詳細 1

【基調講演・特別講演】

SOA エントリー・ポイント

SOA 開発手法

【K-1】	<b>【基調講演】</b> <b>SOA実現への提言 IBM IMPACT2008 ラスベガスからの最新メッセージ</b>	日本アイ・ビー・エム株式会社 専務執行役員 グローバル・ビジネス・サービス事業担当 <b>ピーター・カービー</b> ※日本語での講演となります。
	グローバルに統合された企業 (Globally Integrated Enterprise:GIE) への転換に向け機敏な対応が重要な昨今、企業ビジョンの実現をサポートするために、IBMならではお客様に対する調査 (CEO/CFO/GHCS Study) からの示唆を始めとし、海外での取り組み・方針、ソリューションや業界の動向について、ご参考にしていただける最新情報をご紹介します。	
【A-1】	<b>【特別講演】</b> <b>日本企業における SOA 適用の現状と方向性</b>	ガートナー ジャパン株式会社 SOA・Web サービス バイスプレジデント <b>飯島 公彦 様</b>
	ここ数年で SOA に対する関心が着実に浸透すると同時に、ビジネスの柔軟性の実現には、IT の柔軟性が必要と認識する企業が増えています。そして、その認識が、IT 部門のみでなく業務部門へと広がっている一方で、SOA への取り組みの切り口やアプローチおよびその効果について悩む企業も少なくありません。当セッションでは、日本企業における SOA 適用の現状や課題をご説明し、SOA 取り組みの方向性についてのヒントをご提示します。	
【A-2】	<b>再利用、パーソナライズ、データの視覚化を駆使したポータル・サイトの実現方法</b>	日本アイ・ビー・エム株式会社 ソフトウェア事業 Lotus® 事業部 Lotus テクニカル・セールス <b>森谷 直哉</b>
	サービスや業務プロセスとユーザーを効果的につなぐ画面の開発や継続的な改善に負担を感じていらっしゃいませんか？ユーザーの役職や部門に応じたパーソナライズ、データのグラフやアラートへの加工、作成した画面の再利用などが可能であれば、開発者の生産性も利用者の満足度も向上します。基盤を「人」につなげるエントリー・ポイントとしてこれらを可能とするのがポータル・サイトです。その実現方法をご紹介します。	
【A-3】	<b>迷わない ESB 構築</b> <b>ー 基本要件に基づいた標準 3 パターンによる IT 連携基盤設計</b>	日本アイ・ビー・エム株式会社 GTS 事業 ITS ソリューション・センター ミドルウェア・サービスアドバンスド・プロジェクト・スペシャリスト <b>春田 章子</b>
	SOA で何をめざし、どこから始めるかは、お客様の環境、状況により異なります。このセッションでは、SOA を始める 5 つのエントリー・ポイント、ESB を構築する際の 12 の基本要件、ESB デザインの標準化についてご説明し、お客様の SOA へ向けてのヒントをご提示します。また、ESB を実現する IBM 製品もご紹介します。	
【A-4】	<b>新たな情報統合基盤、</b> <b>インフォメーション・オンデマンドから始まる SOA の実装</b>	日本アイ・ビー・エム株式会社 ソフトウェア事業 インフォメーション・マネジメント事業部 IOD 推進部 部長 <b>森 英人</b>
	SOA のサービス・コンポーネントが真に再利用性をもってダイナミックに利用されるためには、データの仮想化・共有化によるアプリケーション・ロジックとデータの完全な分離が必要です。情報統合技術とマスター・データ管理技術に基づくインフォメーション・オンデマンドは IBM からの回答であり、特に 700 種類以上のサービスからなる MDM Server はお客様に今すぐ SOA 実装に取り掛かる勇気を与えることでしょう。	
【B-1】	<b>Ask the Expert</b> <b>～BPM/SOA 導入の疑問にお答えします</b>	日本アイ・ビー・エム株式会社
	SOA の検討段階では、「設計の粒度は？ ROI の算出は？どこから始めるべき？」などといった共通の疑問点が浮かび上がってきます。このセッションでは、アンケートによりお客様からいただいた、SOA に関する疑問、質問、関心事に、SOA ベースのシステムを展開してきた経験高い IBM のエキスパートがお答えします。	
【B-2】	<b>効果的な SOA ソリューション開発</b>	日本アイ・ビー・エム株式会社 GBS 事業 AIS EA&テクノロジー ディスティングイッシュト・エンジニア (技術理事) <b>榎原 彰</b>
	SOA に対応したソリューションを効率よく開発するには、開発のプロセスや手法の理解が重要です。このセッションでは、効果的な SOA ソリューション開発の進め方、再利用可能なソリューション・コンポーネントであるサービスの決め方 (SOMA) や効率的な SOA 開発に欠かせないビジネス・アーキテクチャー設計の考え方を解説します。	
【B-3】	<b>SOA Meets Web 2.0</b> <b>ー WebSphere® Application Server による RIA の実現</b>	日本アイ・ビー・エム株式会社 ソフトウェア事業 WebSphere 事業部 WebSphere テクニカル・セールス <b>須江 信洋</b>
	Ajax のような Web 2.0 テクノロジーによって、インターネット・アプリケーションは、その操作性やユーザービリティに「リッチ」さを取り戻しています。WebSphere Application Server はリッチ・インターネット・アプリケーション (RIA) を実行するための機能を実現しました。当セッションでは、WAS を使用した RIA の適用例をデモを交えながらご提案します。	
【B-4】	<b>Project Zero で始めるアジャイル Web アプリケーション開発と</b> <b>サーバー・サイド・マッシュアップ</b>	日本アイ・ビー・エム株式会社 ソフトウェア事業 WebSphere 事業部 WebSphere コンサルタント <b>樽澤 広亨</b>
	Project Zero とは、サーバー・サイドのマッシュアップ・アプリケーションを迅速に開発できるオープンなプラットフォームです。RESTful サービスのような Web 2.0 技術を使うことで SOA アプリケーションに新たなエクスペリエンスを提供することが可能となります。当セッションでは、Project Zero を用いた Web アプリケーション開発の概要をご紹介します。	
【B-4】	<b>グローバル・デリバリーを見据えた</b> <b>SOA の「品質」</b>	日本アイ・ビー・エム株式会社 ソフトウェア事業 Rational® 事業部 Rational テクニカル・セールス <b>藤井 智弘</b>
	SOA における「品質」の考え方は、単にサービスをテストするというにとどまりません。変更の管理や再利用の展開といったライフサイクル管理あるいはガバナンスの考え方を考慮しなければなりません。当セッションでは、グローバルな展開を考慮した際に必要となる SOA の「品質管理」のポイントをご紹介します。	

セッション内容詳細 2

IT 基盤設計、システム連携	<p><b>【お客様事例】</b> ステップ・バイ・ステップのヒューマン・ワークフロー実装事例</p>	<p>株式会社 セガ コーポレート統括本部 情報システム部 IT企画チーム <b>本多 秀行 様</b></p>
	<p>今のERPを再構築したい、業務効率向上のためにプロセスの可視化をしたいなど、業務プロセスフローの構築はあらゆる所で起きています。しかし実装はそう単純ではなく、分岐や例外など、さまざまな要件に応える必要があります。当セッションではセガがUFITと共同でWebSphereを利用して開発した、BPELを利用したヒューマン・ワークフロー・システムの実装で苦労された点、工夫された点などをご紹介します、人の介在が随所で発生するプロセス管理をどう実現されたかについて解説します。</p>	
	<p><b>大規模業務システムと</b> <b>SAPアプリケーションの柔軟な連携基盤実装事例</b></p>	<p>株式会社アイ・ティ・フロンティア コンピテンスセンター 技術コンサルティング部 マネージャー <b>川上 義夫 様</b></p>
	<p>長年運用を続けている大規模システムの保守はSlerにとっても利用するお客様にとっても大きな負担を伴うものです。しかし、既存のものを撤廃して新規に再構築することもさらに大きな投資と時間をかけるものとなります。当セッションではアイ・ティ・フロンティアがSystem i™ で稼働する既存の大規模システムの有効活用を前提として新しいSAPシステムとの連携をどのように設計したかについて具体的なアプローチをご紹介します。</p>	
業務プロセス(BPM)	<p><b>SOAを支える</b> <b>IT基盤の最新テクノロジーと設計の際の考慮点</b></p>	<p>日本アイ・ビー・エム株式会社 GTS事業ITS.ITマネジメント・コンサルティング アドバイザリー・ITアーキテクト <b>中川 孝子</b></p>
	<p>SOAの基盤となるITインフラストラクチャーの設計では何を考慮していくべきなのでしょう。特にシステム間をまたがる業務遂行やそのプロセス管理、さらにはサービスの活用が想定外のチャネルから大量に発生した場合などを考慮すると、仮想化の概念に基づいた全体の資源最適を考えることも避けて通れません。IT基盤の設計のキーポイントについて解説し、併せて適用可能なテクノロジーについてもご紹介いたします。</p>	
	<p><b>【お客様事例】 自治体 ASP から自治体 SaaS へ</b> <b>ー サービスコンポーネント動的切替による SOA 基盤の構築</b></p>	<p>株式会社HARP 常務取締役 <b>若月 誠 様</b></p>
	<p>株式会社HARPは、北海道電子自治体プラットフォーム構想(HARP構想)を推進する共同アウトソーシング事業体(第3セクター)として、道内自治体の電子行政化を担うために設立されました。市町村は業務プロセスは同等ながら、それぞれ地域の条例・規模等によって、提供するサービスには差があります。ひとつのプロセス定義から各々の条件に合うサービスコンポーネントを呼び出し、動的に切替えるHARPアーキテクチャーをご紹介します。</p>	
業務特化ソリューション	<p><b>経営をサポートする</b> <b>ビジネス・プロセス管理 (BPM)</b></p>	<p>IBM ビジネスコンサルティング サービス株式会社 テクニカル・ストラテジー・サービス BPM/SOA担当 マネージャー・アソシエイト・パートナー <b>石田 英理</b></p>
	<p>ビジネス・プロセス管理(BPM)は、ITの視点でサプライ・チェーンなどのプロセスを効率よく処理することが可能になることに加え、ビジネスの視点でも重要な役割があります。このセッションでは、BPMがビジネスにとってどのように貢献できるかについて、プロセスの可視化や、業績評価指標(KPI)を提供する仕組みを通して解説をしていきます。</p>	
	<p><b>BPMの始め方</b> <b>ー IT視点とビジネス視点のアプローチ</b></p>	<p>日本アイ・ビー・エム株式会社 ソフトウェア事業 WebSphere 第二テクニカル・セールス 部長 <b>中島 千穂子</b></p>
	<p>「業務の可視化から始めるべきか、つなぐためのサービス開発から始めるべきか、あるいは他の方法があるのか…」数年前、SOAの始め方で同じような議論があったように今日では「BPMをどこから、どうやって始めるか」とい点でお悩みのお客様が多くいらっしゃいます。当セッションでは、BPMを始めるポイントをIT視点とビジネスの視点から、事例を交えてヒントをご提供します。BPMをもっと気軽に始めましょう。</p>	
パートナー様向けセッション	<p><b>ビジネス・プロセス・モデリングを</b> <b>業務フローのお絵描きで終わらせないためには</b></p>	<p>日本アイ・ビー・エム株式会社 ソフトウェア事業 ソフトウェア・マーケティング WebSphere マーケティング・マネージャー <b>渡辺 隆</b></p>
	<p>プロセス改善やコンプライアンス、あるいはシステム化へのRFPの要求として、現在「プロセス・モデリング」に対する注目が高まっています。プロセス「モデリング」はお絵描きツールで行う作業ではありません。当セッションでは、プロセス・モデリングの本質と組織としてプロセス・モデリングを行うためのガイドを提示します。</p>	
	<p><b>ビジネスに差をつける</b> <b>業務プロセス監視 (BAM) 適用の具体例</b></p>	<p>日本アイ・ビー・エム株式会社 ソフトウェア事業 WebSphere 事業部 テクニカル・セールス &amp; サービス 部長 <b>吉田 洋一</b></p>
	<p>わが国においても企業買収や事業の戦略的廃止/譲渡、大規模な提携など従来にない動きが加速しています。そんな中、企業経営においては業務プロセスのリアルタイム監視、評価が必要になります。当セッションでは、WebSphereによるビジネス・アクティビティ・モニタリング(BAM)ソリューションを業務の具体的な例をもとにご説明します。</p>	
パートナー様向けセッション	<p><b>金融機関の</b> <b>イノベーション実現に向けたSOAの実装</b></p>	<p>日本アイ・ビー・エム株式会社 金融事業 ディスティングイッシュト・エンジニア (技術理事) <b>山下 眞澄</b></p>
	<p>金融機関のシステムが抱える課題や、その解決に向けたエンタープライズ・アーキテクチャーの必要性、及びSOAによるシステム実装への考慮点や対応方法についてご紹介いたします。特に、グループ企業、SaaSなどの外部システムを含めたシステム間連携における対応について考察し、競争激化する金融業界でお客様のイノベーション実現をご支援いたします。</p>	
パートナー様向けセッション	<p><b>サービス指向アプリケーションの</b> <b>生産性を劇的に高める"ビジネス・サービス"のご紹介</b></p>	<p>日本アイ・ビー・エム株式会社 ソフトウェア事業 WebSphere 事業部 WebSphere テクニカル・セールス <b>保坂 大輔</b></p>
	<p>SOAは、業務とITとのギャップを埋める考え方として捉えられていますが、これを実現するにはBPELだけでは不十分です。IBMでは、サービスの抽象度をさらに高めた「ビジネス・サービス」というコンセプトを採用することで、サービス指向のアプリケーションの開発生産性を劇的に高めるソリューションを用意しています。当セッションでは、欧米の成功事例をご紹介しますながら、ビジネス・サービスを解説します。</p>	
<p><b>【パートナー様向けセッション】</b> <b>SOAパートナー・ミーティング</b></p>	<p>IBM ビジネス・パートナー様、ISV様、Sler様を対象とした特別セッションです。ここではSOAプロジェクトを共にお客様にご提供していくためにIBMがパートナー様を対象にして進めているプログラム、役立つ情報、最新情報などをご紹介します。 ※自社導入を目的とされている一般のお客様はご参加いただけません。当セッション以外をご選択いただけますよう、ご了承願います。</p>	

※講演者・講演内容などは事前の予告なく変更となる場合がございます。法人様対象のセミナーとなっております。個人様からのお申し込みは受付しておりません。同業他社様からのお申し込みは、お断りさせていただく場合がございます。

IBM, IBMロゴ, Lotus, Rational, System i, WebSphereは、International Business Machines Corporationの米国およびその他の国における商標。他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標。